物波物子

五

遠山
1677
5

門へ13
特
1677
巻ハ

駿河文庫

駿河国

今川氏

今川義元ハ織田信長ニ討ル子息氏
真ハ桶とつぶ国をやりて悪あらし不日永禄乃
初年ニ成ると桶風ニものかゝりて戦乃事ハ
すくれて。見給乃ちえとゝ成ける武林彩ゝとして。白
面乃俗ニ成り申ス浪ゝ物くさ成ゝて。日夜
席と同ゝ酒宴遊興ニ月日をおくり乱舞淫楽ゝ。
年代送り行ける。駿乃さとゝ乃主ゝ成ける。彩
ゝ。浦やく成長しけ主バ。ゝ浦右衛門佐みかゝれ。ゝ
茶湯乃会とゝ成て風頭山茶の湯宗ゝ三ゝ。
ゝり。鶴ゝ成ゝ泉水ゝ遣ゝ。ゝゝ木の枝ゝ

まで。おなじ事と紙りの。三浦がつよわ人とをもひく。
ちうびう。和泉の法ゐ[illegible]。伯耆のかう[illegible]
る舞業。悦とう。黄とう連歌の名匠宗祇の
ひさうせ。白鬼丸。音畑と申す黄と申してゐ。
ゐの。夢想。玉師の天龍寺。青磁の入。悪性
上人。丸頭。金丸。林文の玉童。あうしの茅子。肩衝
保葉の。音合。ふい香鼎。大師。卓机。ふいと。貯
丸。日年の名物。ぶふいと。貯ます。黄と。
綾衣と。裁俗て。袋。沈檀。琳瑯。ちづり。
て。宗。ちの。つみ。ゆ。ふ。い。ゐ。方。も。泥。
ちう。浦。ゐ。ゆ。ず。地。より。漏。ゐ。ず。ち。長。百。姫。
ちしうだう。賦。歌。ゆ。く。保。仮。ち。ぢ。黄。とう。鹿。ち。く。

横。ゐ。ふ。ゐ。ゆ。ふ。ゐ。ゆ。ふ。ゐ。ゆ

辛くて市四郎より弱北条の者うして川へしづ
信濃の国へ引ずりこむ孫寿丸ゆゑ氏政は
ものゝ数と笑ひ蔑ろに扱ひとつもせずばかり
車源皆くつまく新中よゆゑ是ゝ
別ひ仕ゆゑ。さぞいろ見と足合せ一言の挨拶
をなぐず呂人ゝ敵ひすぐ
逃り用。氏政城よこゝろ
ふれよ三浦中も仕ゆ。低城ひ山ゆ人引こゝ
ひをまちく軍とゆゑ軍えとゆへすく
ひよ保て小原仕る弱北ふ仕中る長谷川次郎
庄東ゆゑくこゝて。ぐふ
川ー乃城よ入ま城中七の孫いづまとゆゑ

ど氏政り武田ぐ。その孫寿乃鉄
央とゆゑ。わゝ見ゆく吟味ゆゑ
わぐ。を年比つ
一ひよ原城よ
くでしみく三ゆ
甲斐中形ゆ大信玄ひ賊ゆ強ゆ
三浦石遠ゆ一弱よ喪とゆ軍ひ半ひ
つふゆつひ見ゆき。物乃ゆ弁ひ
遠甲る物ゆ。ぐて氏政とゆ
の城ひ。ぐゆ
ゆとひ。食とゆ
ゆ三ゆ氏ひ一人

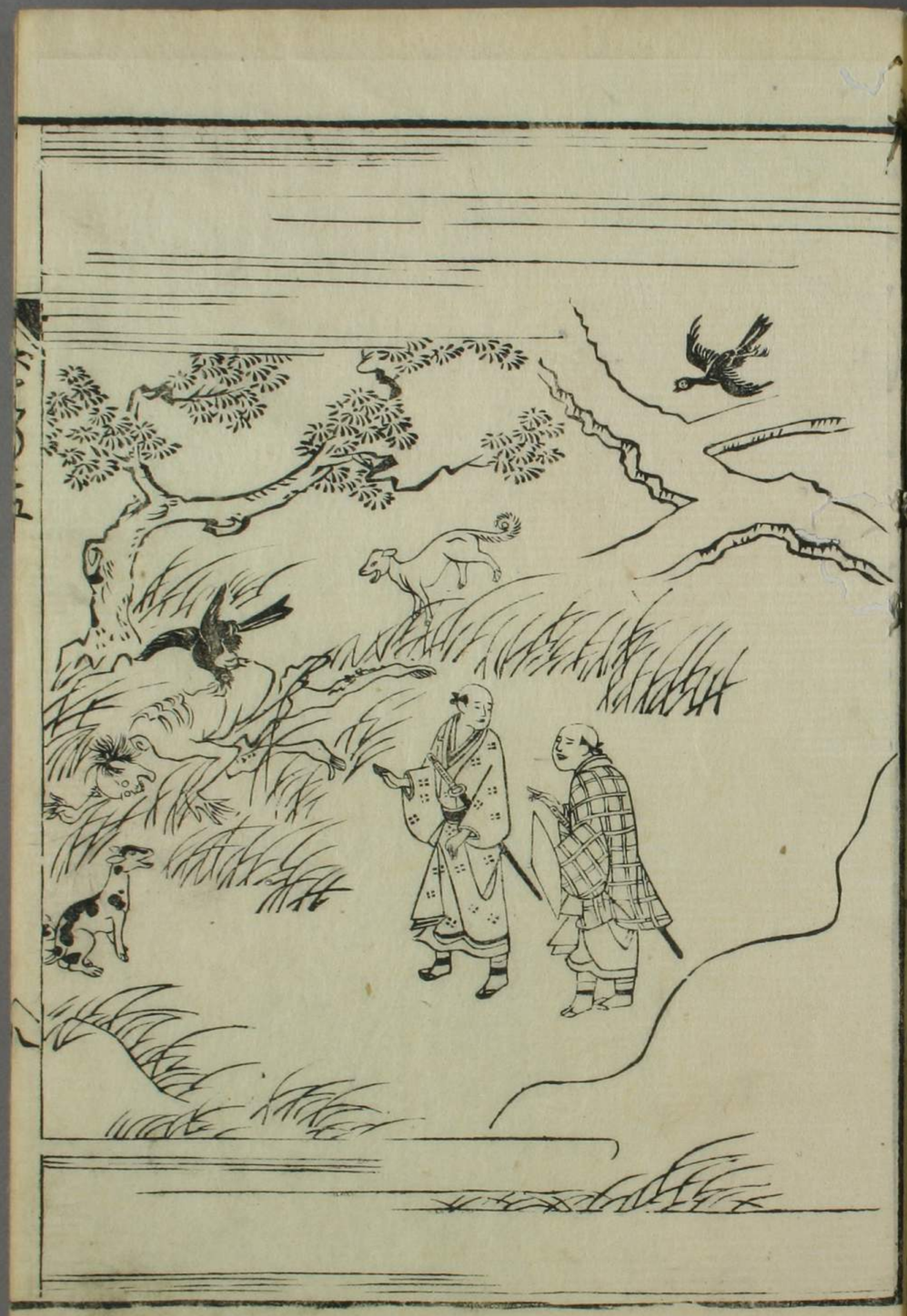
はけ[illegible]て。強の通江参川[illegible]ゆ[illegible]
福功の軍を三浦よりひてはせつる。勝と
とり。頼朝ひ機とり多とりぐひよ和平の
横あいこ[illegible]ゆりうれこ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ゆ[illegible]ひ[illegible]
はとわつる。勢と負く機ゆ[illegible]
る[illegible]ゆ通ふ[illegible]
[illegible]ぐ村[illegible]百姓[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
年[illegible]ひ[illegible]
[illegible]

[illegible]年[illegible]の竜[illegible]百姓[illegible]
[illegible]軍[illegible]
[illegible]
[illegible]

縄とりくつろぎたる体。三浦の介十人ばかり
ひとしなに成て。破れたる笠とおぼ
しき物をかぶりしまつ。破れたる笠とおぼ
しき物をかぶりしまつ。右の膝を突
たるもあり。四方の面とつかしこ。そこともなく
ちりぬれど。まだ新しうきたる長
柴をうちて。やうやう三川の国足利の城
ぐうつくく。小笠原右馬の助と名乗られ
ちぶ。世を憚とうしい。三浦と呼ばれ
わ神力抜群なれば。人数を引つくろ
ひて。小四郎入道。氏満を出でて。武蔵
小四郎入道。行方知らず。
小笠原右馬の助。命を惜まず。
敵の中へ駆入て。
敵を切て。
敵を切て。
敵を切

右衛門ちかゆゞうろ。をいうを情なさいうへうか。
親ゝも是ゝと引入くゝうせうの。せうて金平
ハゝとしりぞくゝ。霞めごくゆる濃と面てかう
帝ゝてゞうひゆもひ親ゝさけ也ハ。小姿系が侍
是御長七とふものゆまうて。傍う三ゝうにうぐ
ゆうでゝうもゝ。金ゝうう
その代ゝ。鼻とうぶ。片平とゆで評ゝうと
ゝまゝて金ゝ情ゝ問ゝれハそゝし平鼻と
ゝれゝゆうゝ金とゝ。ゝけゝ也ゝ
濃ゝゆゝ思ゝとゝ
ゝゝ。ゝとゆゝうゝ
ゝゝ根性ゝゝ
ゝ侍ゝ

ゝゝゝ
ゝ清右衛門ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ



常田合戦甲州軍法遠矣

甲州東郡恵林寺ハ真言ノ古刹ト
求寺ト云フ。寺ハ不動明王ナリ。法華怨敵
ハラフ。新造無念怨憎乃ヒトリ
来宝竜ハ智剣ハ好ム実相乃ヒトリ
六賊甲慶ヒトツ降伏シ世ハ
利カシ好ム。ヒトツハ魔ノ金剛ト
て智行無価乃恵ヒトツ。四裏相応乃ヒトツ
見ルハ。三密観行ハ月ノ如ク青龍ヲ
吟ズ動種ヒトツ。ヒトツ乃意ハ相応ノ
ヒトツハ。中臺ノ胸ハ内ヒトツ。三業帰命
ハ音ヒトツ。勅給掲号ノ明道也ヒトツ。法人

きうとひとつ。如特護合護摩頂ヒトツ。
とヒトツ。ヒトツ。ハ魔ハ
国ヒトツ。甲州ヒトツ。常田作云ハ
ヒトツ。ヒトツ不動明王ヒトツ。豊ハ計ヒトツ
ヒトツ。ヒトツ作仰ヒトツ。
護摩ト法ヒトツ。礼法鎧ヒトツ。軍勢ヒトツ
勝利ヒトツ。ヒトツ作云ヒトツ
ヒトツ。ハ魔ヒトツ。天文廿一年ヒトツ
ヒトツ。ヒトツ。ヒトツ
ヒトツ。ヒトツ。ヒトツ
ヒトツ。ヒトツ。ヒトツ
ヒトツ。ヒトツ。ヒトツ

いまだ[illegible]ばかりなる武軍の[illegible]
[illegible]津とそうしのく秋田[illegible]
[illegible]あづまの[illegible]
小山田[illegible]秋田[illegible]小山田[illegible]
[illegible]佐竹[illegible]芦田[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑ手ハ[illegible]れ[illegible]と乱いる夫れ老者ハ
おもひ[illegible]ず軍勢ハ
京都ハ[illegible]て[illegible]
のづ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]年者と[illegible]
孫[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]

軍陣の雲霧わきたつ中に立
ちく曲輪の屏風に寄掛し。始の浮りに成ぬる海の
ごとくなりぬ。ふくこと毎日毎夜味方をくれと
うりこぶりとまやぐ。肝とひや。陣鉦
ゆるる軍兵とのこと。軍法に神定有るすぐ
れたる甲冑を辞まりけ。ぞくれ歌味方海くく
陣所乃巻ゆ。ふ時恵の兼因ひまま
てぞくるくみとひゆん順現順せ海ひ
ぬ。ぞくるくみとひゆん順現順せ海ひ
伝受をゆて海津ゆり

歌味方
くれぞ海者ぞくるる
ゆ兼手か ぞくく 陣筆と ぞくるみ
陣所とくるし 七日ぞくる 陣ぞくみ
紙とくるくれぞ
山陣ぞ ゆ流 ぞくるとや

甲命也

越前の国朝倉氏の庵原かたに新らしき世
すゝし名を惜うゝくいづて。物づゝに情ある海
をうらきえありけ中ハ侍ハ皆いとゝ
ゆゝしいとり。家々皆緑
なるうれすさえいりり。海とゝもいとゝやゝ
ゆくゆゝして
ゆいわまりとゝ不るゝ中ゝ
くゝひいづけて。ゆゝくゝひ海ゆゝ。ゆゝ
ゆゝ中ゝ。ゆゝるゝ文ゝ
てゝいづゝゝゝ
甲斐のゝゝゝ中ゝ

ゆゝひ濃ゆゝ中ゝ
で。海ゝゝれゝゝ
ゝゆゝゝ。海ゝ中ゝ
人々ゝ
ゝいゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

ほぐれあまりてあまりのちちとまれ今朝の別れ
ぬるとて逢
別れまくの惜しさ
又いつとふ契りを思ひあはずこと夏今の世はあるうら海
辺をあはれとおもふてこれば。ゆるとそとそ
ぶ郭の別れまくの限りの海
ちくしつてこそ
逢しかまくの
義家人ともおもてい
やり合ぬ
とは越みの食いつ
雑ぶしりて
あるこれの花。二人ぬ
見ぬ
うぐ人くあるの花ぐ
絶くその塚
巻三立て
命もとて世あ
参る二人乃
あるけを
世ての巻

ほくて

掃部頭直弼拝領

[illegible]

[illegible]

[illegible]

療治をいとなむ。ものしるしなきこと。
なりゆくまゝに、ものの
神仏に願ひ奉れども、
その験なし。
世の人、今はわが
身の命をのがれ
難しとおもひ、
親はらからの
ものをもかへりみず、
ひたすら
ものの
とりて

すでに
思ひ
あきらめ
ものの
ものの

ものの。
ものの
ものの
ものの

あくまでうつくしきこころ世の中
静かにすぐれたるこころばへ人々
せんとやうのものにて
為乃身をそこなふ事なく
と書くこの物をむすびつけ
あひて死けるこころあるこ
うぐをそこなふ
ところなり
極楽往生あり
ところにて
ゆめ一ぞう

○躑躅紫とあり

元和年中此国の侍柳宗黄あり葉として
常緑なるもの花咲ては黄ばみて。歯
ぐきをくすぶる。

○とあり。けだしこれと軍ゐと覆はく。
その外会稽しるく常緑にして。此国
すみもつ。そのみと孫子命とをぐく。年いまだ
成ずりけまじとのいぶ此中にかく。たがひのの
みじもうを。はまちくあつ。ぶつ
ぶつ。はまちくあつ。物ふ
はまちに。ものいまくあつ
いやけるの葉。ものもらうさ。みをこれと
りの感じてゆたし給ひ。
ちくさ。人のみこいけるのはまぢ
はまぢれ。後ろいかと

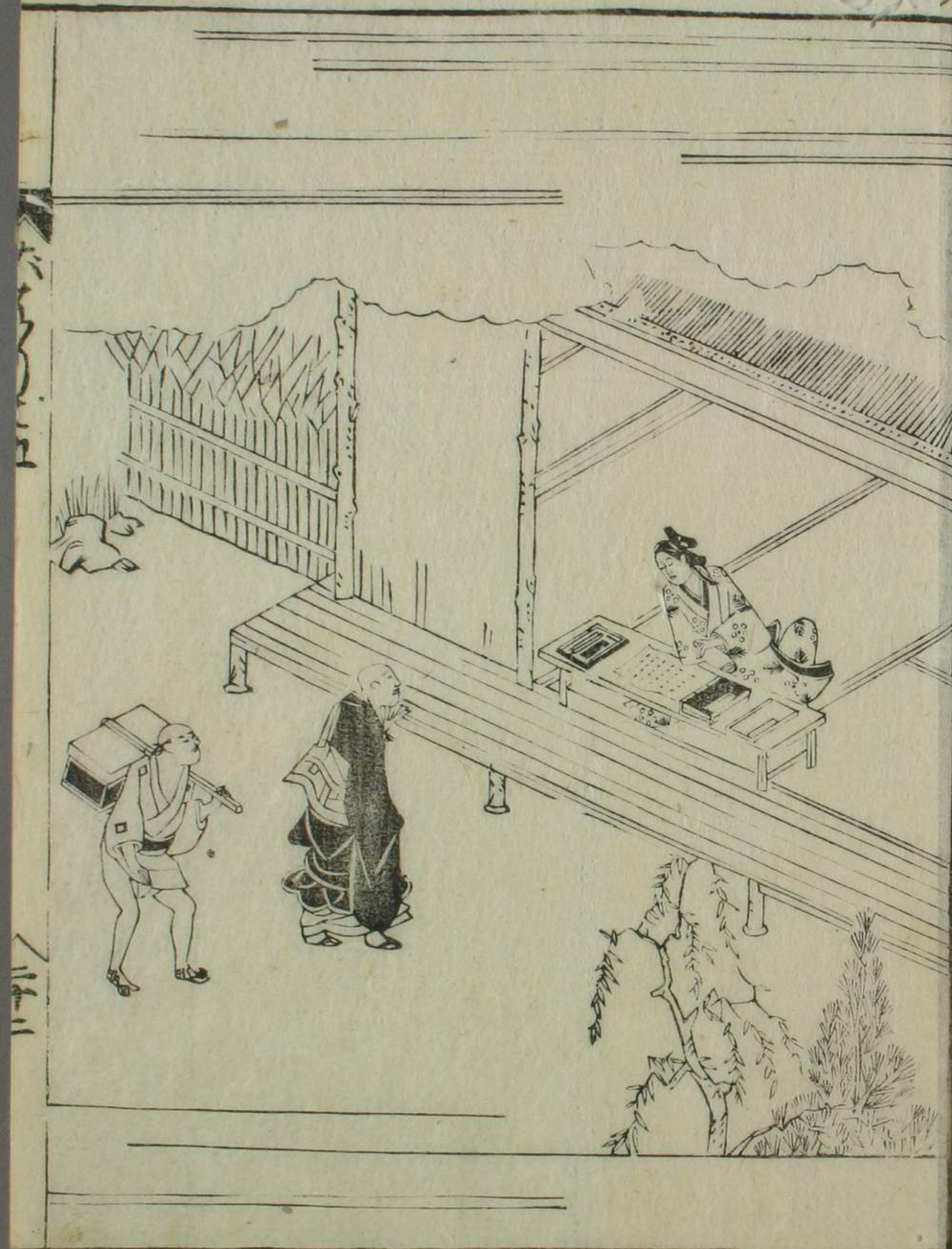
よて孫子ゆたしと。親さうびもひ
ちろは元興寺此宿住ちては時。祝
ものがらして。砂乃けみ
ものでて。もれる人ありて。
ちろ此里ちとる。孫子命が深と見て国より。
いぢ物はもひしみく。
うにやぢりぢもとりくめくぢつひつる
ちあり

江南柳　寇保　尚乾　桜葉陰　頻花
黄鸝翼　鞠漢待　春深

葉がすわちみぢ。ちまあし行ちこのちまり八弦ちちき
と書くちりけまは孫子命地ゆさまりちあちしれとや
ちひけ人文此ふちく被ちあり。返年せんちぢを

とうずれば。銅又ものしりてゆくを横さえ
切れ世ていたそ治ものぐつのつづてのうずはけるひ
宿怪いしかとうとうしたりぬしたりぬ
ぬ年しを世ろ知りはれり。ちあ
うれ過ひ。へ。ものもわを
きろう。祝やうもく情をし
ぬをを海りを海や命年をを
ちくをかう。安ろ孫。ぬ子ろ門ろをうん
いずすべろ決。ぬ知ぬ生
孫ををいを也。年命ぬを
知ろ泡わづり。強ぐをろう
ろ思へ。寺ていりを。呪唱人食はぬ

物換ろ言ろりりぬ。命ぬ
ぬれろりぬ。ろ死ろろろ
ろへべろと。をぬりをわづり
海や命ぬ年。海ぬ。
ろをしをろめろ海ろ
いろおやんあぬ
ぬろうろろわろ
ろ嘆ろ〇て
わぬをを薬怪人婚わづ
ぬ年ろ世ろを海ろ。をづ
いろ来ぬを移ぬふろろい
んろを死ってづみをを



ちひらぎちく高のくらもとに
ど。同さまの乃信巻りて。戸
御くわうてゆらくあり清さ
思わぐ痩つまるくまるさば
ぐくうぐくくやらうり。
ゆくあり御ちく貴わく
明一同さまの信さくしゆ
まあうぐ。ちうくぶふまぶ
世くれ。ちゆうもしのかと
ものくく浮遊しまうの
稽ぐとうれいはうもと。
御乃ちあり。高会と

ぶ川ちまも。断食てあうもれ
てくくうう。ちぐ
ちのくくく

海のゆうのひとつ[illegible]猛とのうの功徳とつくく
[illegible]福田とつくる解脱乃[illegible]入[illegible]ぞ
[illegible]年金[illegible]しも。浮世の悪業をうひしづく魔石
[illegible]ゆうく[illegible]海のうのは波[illegible]ます。人[illegible]
甲[illegible]ゆく。[illegible]通乃[illegible]
海のまづ[illegible]て此一会と[illegible]
[illegible]会へ。[illegible]と[illegible]て[illegible]
[illegible]湯鉄[illegible]鉄[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]平[illegible]
[illegible]
[illegible]

四[illegible]八[illegible]国界[illegible]
[illegible]乃[illegible]鉄乃[illegible]
[illegible]やう[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぜんくつうれてつ。ぶ世の移さ
をとうんかの用。浦くく雑犯して。戸とろ中ろ浦と
幸部潜とそて浦しみくころひろ。源写命人今
引入しあがうけは。浦くく宥使ろくが知と
ろく源命命爽ぶの天井て
やくくくくろけまろ中氏とてうけろ。
ろの月の契つぶ。家のうち三井家ぶふ
も程ろもも出のろ。りあ氏浦ぐく
屋ろ行ろろ所ろ。わくやとはいろて。
ろ生ろあて。命が家ろてぐろて。金四ろ
ろもの拾ひろも。拾あつめく場ろてゆふ
浦ろす物ろ石ろ屋ぐいてぐ。臨ろわくぶろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

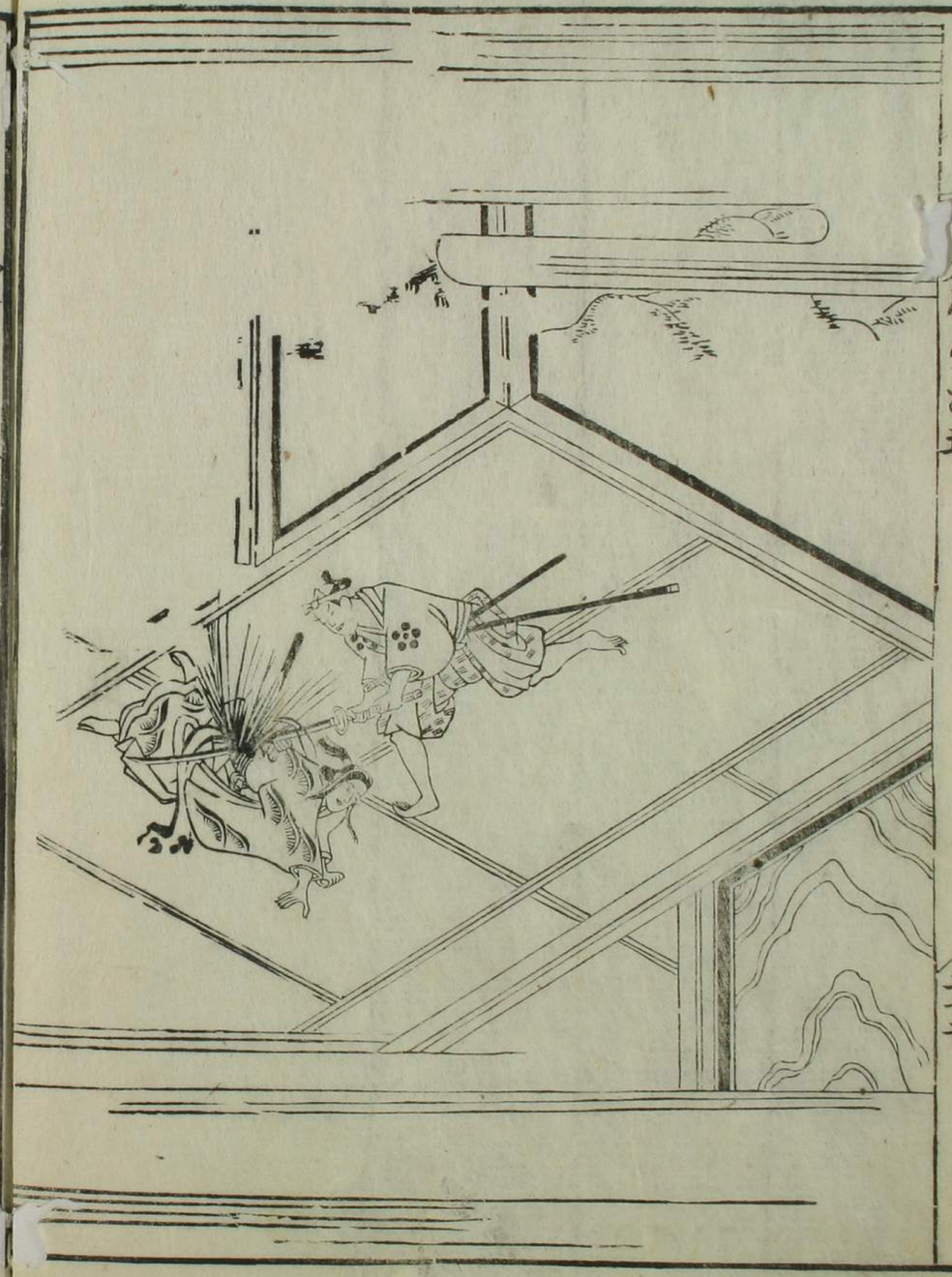
女郎花　松浦佐夜姫　成堅頑石愛
慈染著則情典非情　無所不為馬
嗚呼哀哉汝之業力　假令雖強盛
今所行隨求陀羅尼。光明真言庸
誦供。式加持應速轉迷情疾翻魂
精到中安穏之樂城謹奉尚享

如ゆるひかれしてとふらひをわれて。二三日のうち
ず綱とくるを殺さく。おそるべきかぐやかてまろ
七魂乃うひけるす
ふびへす

板谷源沢が男子の雜
又孫三年の比きりや伊勢乃国司乃孫に深覚
法師とくるを利口の寺とぶらくとぶらくとぶらくと
知れり三百貫までうるあるを利口とゆるし。奥
までもめしけまバ。体ものきものそで奥のけう。
奥ぐるの庵に板谷源沢とふ。いとぐれく眉間
うつくしうもけまバ去年ひとりもくいつせ
まどもやいまぶ。わまりのすかふとうて源沢
さとしてうぞ入うと。ゆくこと来さすくしして
伊勢の海あ磯ちろ　みるのうの海ふ海ふ海ふ海ふ
あるこ入うちすを乃杖のこと来のまるで
新浪ふ井まの五水。いのうも。海ふ井ふれてを。

雜までよいぐ四んと書かりもの保次いぐ四ひ
きん。只うとうめ代やさ4倩軍4世しぐ行りしぐ
寿中よかれ家くや保りくぐ保次ぐ返すせめよでうの
人乃みるめ和くく保次ぐ返すせめよでうの
らめ。人乃世ぐ行りて安くく孫ぐ行ぐ我と
失かりんと。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
及ぐ行りて。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
く地あぐ乃と寝尾ぐ行りて。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ接切ぐ死ぐ行り。孫ぐ行ぐ保次ぐ
の家乃ぐ行ぐ失かりえて。孫ぐ行ぐ保次ぐ
を後ぐ行ぐ国乃ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
いのぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ

絶ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ死ぐ行りの。その失ぐ行ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ
ぐ行ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ。孫ぐ行ぐ保次ぐ



みーたる男りて。ぬえとも蒙ぐ。あうひいふ
婦。鶏鳴。別よいるとゆわく然とゆうすまりゆりと祝
せりの。是いかに。ふり侍まのしとも。うの孤りと
是とりのみかれ。まに賊とうく走いふ。
賊ぬく。ぬえとうそ。まりうのハ。
もゑて。毛礫ろぐ。くとやく。常母ろけ。
年乃ろもすきまハ。ぬとへい侍ろ水のぐ。
りて又ゆうぐ。ひうろて。ろびゑりれう
すぐさいぐもく。狐ろくゑさくゑ留まぐ。ぬとや
小裏ろ。狐乃ハ。ぬとろ侍ゆうず。
果乃沈絵ぐ。鐵悔のえすい。遠尋もの年のこさハ。
画ゑ。侍ろ仕句り習果乃。瓔ところ排。語ぐし

法水上人は、ほとゝぎす巻の。桃とわうち袖と部の
ちまちまりといふ日見くれ。此実は生死の事
いとゞ法の師匠易うずといふ。家の世よりて
学問とこゝし。はた稍をうへるに。初のしゝ
ちえ雅信の業なり。と言く。常盤乃山に見つゝ。
いとゝ。むこうの主ともみをつゝまて。中に日所せ
判官殿の弟義経系金沢に死し。薩摩和尚
此国の郡をうちくまて死せり。こゝに男女此ほどひる流
いつとゝ所あり。近比服とゝ財とゝ行く無
いづこに実ある事とをうなせり行き事
ちうちうの多ほみず方と刺て巻のよ入と言ふ事
ちうしげ方とつゝく死ほどひ行ぐり

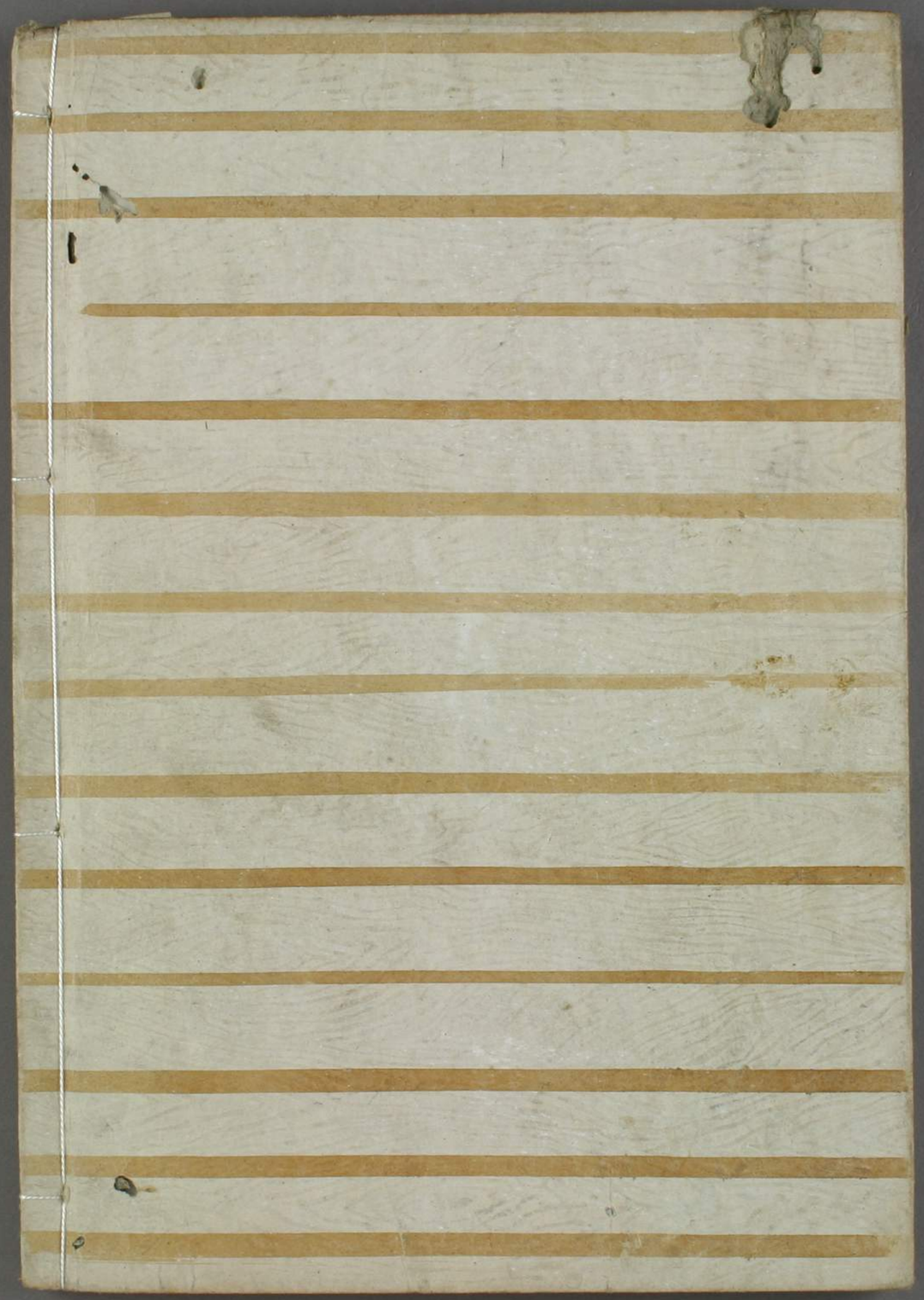
と失ふりのやうよりも甚だ。如何乃多ず服道乃多ず方とて
年ぐ。ぬとゝ。ぬとゝ方とほうぐ事

俗法了

ちうて

ちうとゝ

ほとゝぎす

桃しべ

袖とまける